

謙虚でヒューマンな政治家

伊藤 善市

大平さんに初めてお目にかかったのは、教え子の結婚式の時である。大平さんはお祝いのスピーチのなかで、「Say it with flowers」という言葉を引用され、結婚してからも、たまにはお嫁さんに花を買って贈るといふやさしい心を大切にしてほしい、という意味のことを話された。「私が美しい花のことなどをいうと、みなさんはお笑いになるでしょうが」とおっしゃったら、本当にみんなが哄笑した。大平さんはあの細い目をいっそう細くして大変ごきげんだったが、私はその目に大平さんのヒューマンなやさしさを見た。

その後、公式のパーティーや青年会議所のパネルディスカッション等でお目にかかる機会が増え、ご高説を拝聴することができたのは幸いであつた。一橋大学の先輩ということもあって、緊張することなく、いつもうちとけて話し合いをしたものである。大蔵省出身のため、経済に関するお話はプロ級だったことはいうまでもない。しかし、外交や文化、思想といった面での造詣も深かった。たくさんのいい本を読んでいる私淑すべき先輩をもつたことは、われわれの大きな誇りであつた。

ところが、総理になられてから、総理の政策研究会が発足し、その打合せや中間報告などをするために瀬田のご自宅へ二度ほどかがつたことがある。「家庭基盤充実研究グループ」の議長を引き受けるように、という依頼だったが、私は家庭問題の専門家ではないのでいささか不安であつた。

けれども総理にお会いして、「充実した家庭こそ、国民の安らぎのオアシスであり、日本社会の基礎構造をつ

くるものである「こと」、「戦後の復興、発展を支えてきたものは、家庭であった」こと、「政府が家庭に介入するようなことは、なすべきではないし、政府が望ましい家庭像のあり方を示すことは、適当ではない」が、家庭盤を充実させ、ゆとりと風格のある安定した家庭の実現を図っていくうえで、「家庭自らの自主的努力と相まって、政府がなにかお手伝いすることがあるのではないだろうか」ということを研究していただきたいのだ、という意味のことを静かな口調で語られた。同様の趣旨を、昭和五十四年三月十九日の第一回会合の時にお話になられ、「これを機会に、大平内閣についても批判すべき点があったら、きびしく批判してほしい」といって結ばれた。総理は帰りがけに、「さきほど大平内閣のやり方についてもご批判いただきましたと申しましたが、大平内閣の批判だけをやって下さい、といった覚えはございませんのでよろしく、念のため」と、ユーモアたっぷり一言付け加えられた。みんなが腹をかかえて笑ったことはいままでもない。

研究報告書を提出したのが五十五年の五月二十九日。終つてから官邸で総理夫妻の主権によるパーティーが開かれ、メンバーのほかに、その配偶者および親がお招きを受けた。総理はことのほかごきげんで、あの翌日入院されるとは誰も予想できなかった。総理ご健在中に報告できたことを、せめてものなぐさめにするほかない。このパーティーには七十七歳になる私の母もお招きを受け、総理ならびに志げ子夫人と楽しいひとときをもつたことを母は大変喜んでおり、時々当時の写真を出しては当日をしのいでいる。そんなわけで、私も思いがけない親孝行と家内へのサービスをすることができた。これが家庭基盤の充実の典型だ、といって香山健一氏とあらためて乾杯したものだ。総理は謙虚で、人に譲ることのできる高い志をもち、ライバルの政治家に対して批判や非難めいたことはいっさいせず、ヒューマンで、知的な政治家であった。ありし日の良き思い出をめぐって感慨はつきない。

(東京女子大学教授)